

# 公益社団法人 日本青年会議所 九州地区協議会

## 2020年度 会長候補者 意見書（参考資料）

一般社団法人 佐賀青年会議所  
江口 尚登

### 【はじめに】

私たちの住み暮らす九州は日本の首都、東京から約1,000km離れている一方で、韓国の釜山まで約200km、ソウルまで約500km、中国の上海まで約1,000kmと、日本の中では東アジアの主要都市と近い距離にあります。また、九州の空港からは、アジアの主要都市を中心に50以上の国際路線が張り巡らされており、九州の港湾にはアジアを中心に130以上の航路において外貿コンテナ定期船が就航するなど、アジアとの交易、交流環境が充実しています。その地理的な近接性もあり、九州はアジアとの経済的なつながりが強い地域です。例えば、九州における企業の海外進出件数433件のうち、352件（81.3%）はアジアが占めています。また、九州の輸出総額に占めるアジアへの比率は58.4%で、全国より5.5%高い状況です。さらに、九州への入国外国人数も、アジア地域が96.0%と大半を占め、全国より12.2%高い割合となっています。そして、アジアと日本との新たな物流結節点として博多港や北九州港の活用が進んでおり、アジアと日本とを結ぶゲートウェイが、九州の成長の大きな源泉へと成長しています。また、古くから九州の「港」を窓口に、韓国、中国、台湾、さらにはアジアの国々などと交流を行い、これによってもたらされた様々な文化は、その後、九州のみならず、わが国全体の文化の発展に大きく寄与し、古くからアジア大陸と日本の交流玄関口として独自の文化を形成してきました。

そして、九州は温暖な気候、肥沃な土地に抱かれ、全国屈指の生産量を誇る農水産品や海外にも知られた温泉地、自然が豊富であり、地域を輝かせる多様なポテンシャルがあります。農林水産業の生産額は全国の2割以上と高い供給力を有するなど、多くの自然環境や資源に恵まれています。また、アジア諸国をはじめとする経済発展に伴う富裕層の増加や人口増加は、少子高齢化、人口減少等により市場が縮小傾向にある日本国における農林水産業にとって、市場拡大のための大きなチャンスともいえます。また、「和食」のユネスコ無形文化遺産登録に代表される日本食文化や世界各国での「日本食ブーム」など、日本の農

林水産物、食品が全世界で高い評価を得ていることもあり、九州の魅力がさらに輝く絶好の機会となっています。

さらに、日本では2020年東京オリンピックが開催されます。国際的なスポーツ大会は、国際親善や世界平和の確立に大きな役割を果たしています。今後、日本や九州でも世界規模の大会が開催されようとする中、世界中に九州の魅力を伝え、互いの相互理解を深め、多くの九州ファンをつくり、その魅力を体感して頂く必要があります。地域の活力や国際化に向けてのまちづくりが世界から期待されているのです。

その一方、日本も含め世界では情報技術ITの発達により、社会や生活環境が変わり続けています。また、発信や情報収集のツールにおいては、SNSで誰もが発信できる世の中になっています。さらに、インターネットや人工知能AIが、経済社会のあらゆる先へさまざまな影響を及ぼし、私たちはその豊かさや便利さを享受することができています。これらは、モノのインターネット化IoT、ビッグデータ、人工知能AI、ロボットなどの、新規技術の第4次産業革命とも言われ、社会的な課題を解決するための技術革新（イノベーション）が全産業において生じ、労働力の構造が変化しています。さらに、需要面では、AIやロボティクスなどの新技術が人間のタスクを代替していく動きが広がる一方で、新技術を活用し、新たなビジネスを生み出す人材の需要も高まっています。

この様に、社会は常に、より良くなるために前進を続けているのです。

さあ皆さん、新たな未来を描いていきましょう。過去や目の前に起こるマイナス面ばかりに目を向けるのではなく、より良く変わるために私たちが今できること、為すべきことを考えようではありませんか。今こそ、未来のかたちを私たちが描いていこうではありませんか。

社会課題の解決に向けて一歩でも前へと進む中では、私たち自身の「成長」が必ず約束されています。成長の過程には多くの学びと出会いが必要であり、何もしないことより、やってみて失敗する方が、多くの学びの機会を得ることができます。だからこそ、多くの学びと出会いがある青年会議所で、私が下記に示す九州の未来を共に実現し、その「成長」の機会をつかみにいきましょう。

#### 【活力ある九州づくり】

2012年に成立した第2次安倍内閣では、デフレからの脱却と持続的な経済成長を目指すために、アベノミクスを展開してきました。その結果、各種経済指標に改善の動きが

見られ、足元の景気は緩やかな回復局面に入ったと言われ、その中でも、雇用にかかる指標については、失われた20年には見られなかった高水準となっています。

一方、この雇用指標の改善に関しては、現在の景気回復による効果というよりも、労働の需要と供給のバランスが変わったこと、つまり、人口減少による構造的な要因が強く働いているためと考えます。今後を見通すと、労働力となる生産年齢人口が、総人口よりも速いスピードで減少することが確実となっており、現状の仕組みの中で企業活動を続けると、日本をはじめ九州における経済活動は、人材不足によって今後急速に縮小していく恐れがあります。

その様な中、九州の経済を成長させるためには、多様な人材としての外国人や、高齢の方、また、女性の社会での更なる活躍を促すことで、多方面から労働力を確保するとともに、ワーク・ライフ・バランスやAIやIoT等の新技術を活用し、多様な働き方を推進することで、企業における生産性の向上を図っていかねばなりません。

また、企業が収益をあげることが、同時に社会や地球環境の改善につながるようなビジネスモデルが求められています。その中で、2015年9月の国連サミットにて全会一致で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指し、世界中が手を取り合い2030年までに達成すべき17のゴールを設定しています。その全世界的な潮流の中で、2019年度に引き続き、日本で、九州でSDGsを最も推進していく団体として、SDGs達成のための運動を力強く展開していきます。その中でも、ジェンダーの平等を達成し、全ての女性と女児のエンパワーメントを図る、「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」や、全てのひとのための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）を推進する「目標8：働きがいも経済成長も」を多角的な視点から運動につなげていきます。

そして、広域に連携する九州地区協議会は、直接、関連する中央省庁や経済団体と連携し、働き方改革を九州の中小企業へ浸透させる運動を展開することで、新たな企業価値の創造につなげたいと考えます。現在、企業の価値創造、中長期の投資促進のために、環境と社会、そしてガバナンスを重視するESG投資が加速しています。従来、企業は投資するために企業価値を測る材料として、財務情報が主に使われてきましたが、それに加え非財務情報であるESG経営を考慮したESG投資に期待が高まっているのです。そこで、SDGsファイナンスやESG投資を、中央省庁をはじめとしたあらゆるパートナーとの連携によって、九州における環境・社会・企業統治の新たな仕組みをつくり、活力ある九州経済構築の一步を着実に踏み出します。

## 【安全・安心な九州づくり】

九州では、その位置や急峻な地形等の地理的条件、また異常気象によって、近年、集中豪雨や大型台風、火山噴火等による大規模かつ多様な災害が頻発しています。

中でも、平成28年熊本地震では、熊本のシンボルである熊本城に大きな爪痕を残し、阿蘇大橋の崩壊や熊本県内の道路や鉄道の寸断、そして数多くの家屋崩壊など、熊本県を中心に甚大な被害をもたらしました。

さらに、平成29年7月九州北部豪雨災害では、九州で初めての大雨特別警報が発令され、河川の氾濫や大量の土砂と流木が一体となった災害により、多くの尊い人命が奪われ、今もなお多数の家屋に甚大な被害を残しています。今、熊本や福岡、大分は全国から寄せられた支援の輪に支えられ、復旧、復興に向けた歩みを着実に進めています。しかし、依然多くの人たちが仮設住宅などで不自由な生活を余儀なくされており、被災者の住まいの再建や道路などインフラ復旧に取り組むべき課題は多く残されています。

そこで、私たちが住み暮らす九州の住民の安全・安心を確保していくために、道路などのインフラを整備し、防災危機を想定した対策を立てて九州の防災力を高める必要があります。中でも、九州の大動脈である九州中央自動車道は、九州中央部を東西に結び九州の高速道路網の骨格をなす重要な路線であり、東九州自動車道やその他高速道路網についてもクロスハイウェイから循環型の高速道路を整備することで、産業、経済、地域活性化や九州の一体的発展も支え、災害時にも大きく寄与するものと考えます。私たちは九州地区協議会での広域連携のスケールを活かし、この早期完成に向け、あらゆるパートナーと連携し、運動を展開していきたいと考えます。

あわせて、大規模災害に一元的に対応できる強力な調整力を持った体制整備が必要と考えます。現在は、災害対応や被災者支援は、主に内閣府の防災担当があたっており、定員は約90名と少なく、幹部は国土交通省や総務省などからの出向によるため2～3年で戻ることが多くなっており、防災や危機管理の知見の蓄積も継承も難しくなっているとともに、縦割り行政による発災時の弊害も生まれています。

そこで、新たに、「防災省」の設立を、自然災害が多発する九州から、中でも、未来に責任を担う私たち青年経済人の若者から提唱することで、防災減災に対する社会の機運を高めるとともに、防災省そのもの、もしくはその機関を九州に設置する誘致活動を進めていきます。

## 【ＪＣのブランディング】

ＪＣのブランド価値の向上は、一朝一夕に成し遂げられるものではなく、日常の運動を地道に発信し続けることにより、ＪＣのファンを少しずつ増やしていく他にありません。近年、効果ある発信としてあげられるＳＮＳは、大きな組織からの一方向の発信ではなく、個人の発信が効果を生んでいます。しかし、現状では私たち九州地区協議会のブランドに寄与する発信を行うだけではなく、運動を構築する計画過程での、適切な時期での発信を仕組みとして創り上げていく必要があると考えます。

そこで、ＪＣの存在意義を更に高めるために、「３Ｓ」つまり、ＳＴＹＬＥ／スタイル、ＳＴＯＲＹ／物語、ＳＴＲＡＴＥＧＹ／戦略を念頭にブランディングを行って参ります。まず、ＳＴＹＬＥは、私たちの存在や活動を市民に広く認知して頂く必要があります。あらゆる場で存在感を示し、様々な角度から市民へのイメージ付けを実践してまいります。そして、ＳＴＯＲＹは単発的な事業の広報ではなく、私たちＪＣが何を目的としているのか、何を伝えたいのか、何のために事業を行っているのか、ひとつ一つの事業の目的や内容はもちろんの事、実施に至るまでの過程を発信し、私たちの熱い思いをひとり一人の心に働きかけます。最後に、ＳＴＲＡＴＥＧＹは、その場毎のＰＲをするのではなく、一年間を通して考え全ての運動と連動し計画的、戦略的に広報を行います。私たちが行っているＪＣ運動が、多くの市民に伝われば、共感の輪が更に広がり、ＪＣのファンづくりや会員拡大にもつながっていきます。そのサイクルを実践し、各地会員会議所においても活用できるパッケージ化を展開していきます。

また、私たちにはそれぞれ仕事を持ち、生活があり、その上でＪＣ活動を行っています。仕事、生活、ＪＣのバランスを保ちながら日々、充実感を持って取り組むことによって、「ワーク・ライフ・ＪＣバランス」を実現させなければなりません。

青年会議所も、以前は紙媒体によって作成していた議案を、時代の流れに沿って、ＩＴ媒体で議論する等、仕組みを変化させてきましたが、進化し続けるＩＴ技術の特質を、まだまだ活用できていない点も多いのではないのでしょうか。私たちは、時代に即し、「変えるべきは変え、守るべきものは守る」判断力をもって行動していく必要があります、それこそが、青年会議所を持続可能な組織にするものだと考えます。

ＬＯＭのために存在する協議会として、地域に根差す運動を最大限の効果が得られるように、そして、議案構築にあたる議案作成の効率を高めるために、九州地区協議会として、自らの諸会議で本年度に引き続き、ＩＣＴの活用によってＪＣ運動の生産性を高められるように、誰もが参加出来る機会をつくり、ＬＯＭの実験台となって、ＪＣのブランディングを構築していきます。

## 【新しいJAYCEEをつくる】

昨今、青年会議所メンバー数の減少や、平均在籍年数が短くなり、総会や例会、会議などのセレモニーをはじめとした連綿と受け継がれてきた決まり事、即ち、JAYCEEとして守るべき各地会員会議所の文化も含め、体得や伝承が難しい時代になってきているのではないのでしょうか。それは、残念ながら、学び舎である青年会議所での成長の機会を得ることがないまま、青年会議所を卒業してしまうことにも繋がります。

また、私たち青年会議所メンバーは、JCI国際青年会議所のメンバーでもあることも忘れてはなりません。1944年に、「積極的な変革を創り出すのに必要な指導者としての力量、社会的責任、友情を培う機会を若い人々に提供することにより、地球社会の進歩発展に資すること」を使命に、JCIは発足しました。その一方、現実として、九州地区内において、LOMの状況や在籍年数などにより、国際の機会を得ることができず、JCIメンバーとしてのメリットやスケールを感じる事ができていない方も少なくないのではと感じます。

そこで、九州地区協議会は、国際的視野を持ち、自ら率先し判断力と行動力を身に着けたJAYCEEを育成するとともに、加えて、国際的な奉仕活動の実践する団体である、「国境なき奉仕団」を新たなパートナーとして選定し、自らの地域のみならず、九州をはじめ日本や世界といった広域の視点をもち社会に貢献できるメンバーを育成することで、率先力があり、何事にも挑戦し自ら行動できる人材を創出していきます。また、身近にある国際の機会を捉えるために、JCIアジア太平洋地域会議(ASPAC)、JCI世界会議へ、一人でも多くのメンバーに参画頂くことで、世界の課題に当事者意識をもち、私たちにできる民間外交の重要性を感じて頂きます。

この様に、時代や社会が変化する中において、JCがより良い組織であり続けるために、九州地区内78青年会議所を代表する日本青年会議所の総合調整機関として、各地会員会議所に寄り添い、地域のために、LOMのために「活力ある九州経済づくり」、「安全・安心な九州づくり」、「JCのブランディング」、「新しいJAYCEEをつくる」運動を展開し、多くの学びと多くの出会いの中で常に未来を語り、行動して参ります。

## 【共に未来のかたちを描こう】

未来のかたちを描いていきましょう。

現実には厳しく、毎日を生きていくことすら大変かもしれません。しかし、その中でも未来のかたちを描けるかどうかで、あなたの人生は変わります。

自らの人生や仕事に対して、自分はこうありたい、こうなりたいという大きな夢や目標を持つことが大切です。高いビジョンや夢を描き、その夢を一生かかって追いつけることが、生きがいとなり、人生も、また楽しいものになっていくはずですよ。

時には、夢と現実の大きな落差に打ちのめされることもあります。けれども、人生とはその「今日一日」の積み重ね、「いま」の連続にほかなりません。いまのこの1秒の集積が一日となり、その一日の積み重ねが一週間、一カ月、一年となっていきます。

だからこそ、未来を見据え、今やらなければいけないことをやり遂げていきましょう。

私は2005年、所属する佐賀青年会議所の門を開き、多くの学びと多くの人との出会いを通して、「成長」させて頂きました。その中で、「出向」という機会を頂き、九州地区協議会をはじめ、JCI、日本青年会議所、ブロック協議会に出向し、青年会議所と私を取り巻く世界のスケールを直接、肌で感じる事ができました。そして、他人事ではなく自ら率先して行動できる人材と変わってきました。

人は、変わることが出来る、だからこそ、一年後二年後の未来では、自分自身がより良く変わっていて欲しいと願い、私は今を最大限、一生懸命に生きています。

さあ、皆さん、活力ある九州と未来へのJCに新たな未来を描いていきましょう。あなた自身の成長のために、そしてより良い社会を築くために、九州地区協議会とともに、未来のかたちを共に描いていこうではありませんか。

以上